

令和5年度ネットリサーチ「性の多様性」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- 性的マイノリティに係る言葉の認知状況では、『言葉も意味も知っている』言葉として、「レズビアン」が84.7%、「ゲイ」が84.2%と高くなっている。一方で、『知らなかった』言葉では、「SOGI」が77.8%と高くなっている。
- 周りに性的マイノリティの方がいるかについて、「はい」が22.6%、「いいえ」が63.7%となっている。また、その関係性は、「友人」が59.7%と最も多く、「職場の同僚、同じ学校の人」が34.5%と続く。
- 「いばらきパートナーシップ宣誓制度」の認知状況は、「言葉も内容も知っている」(12.6%)と「言葉は知っていたが、意味は知らない」(15.1%)を合わせた【知っている】は27.7%となっている。

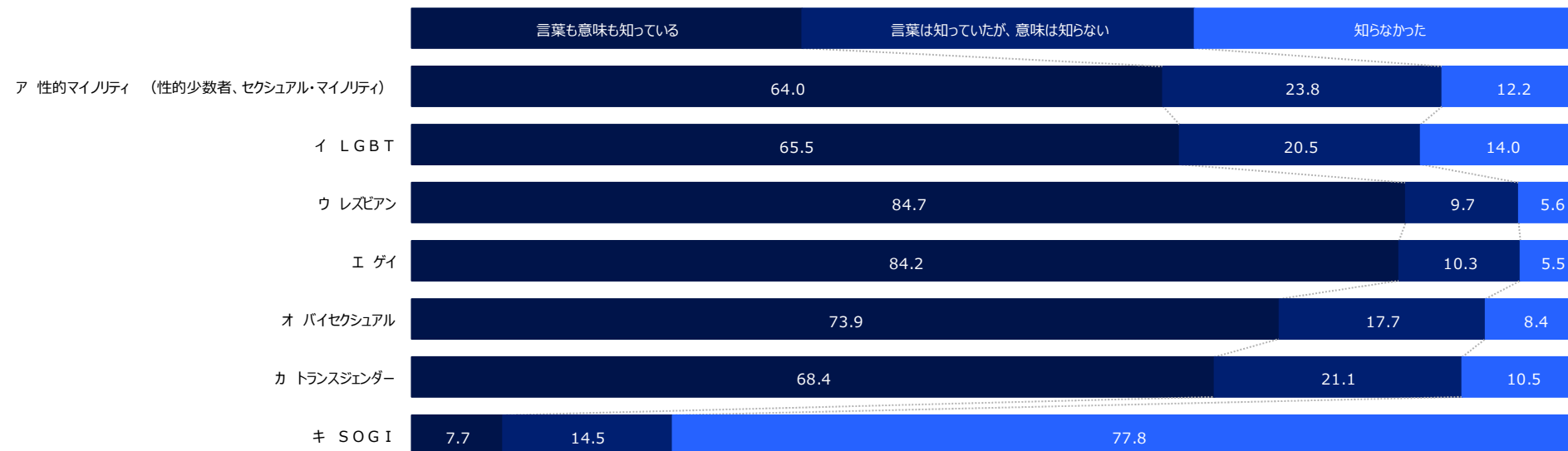
■調査結果の概要

1 性的マイノリティに係る言葉の認知状況

◇ 『言葉も意味も知っている』言葉では、「レズビアン」が84.7%、「ゲイ」が84.2%と高くなっている。

◇ 一方で、『知らなかった』言葉では、「SOGI」が77.8%と高くなっている。

Q1.あなたは、次のア～キの言葉と意味について知っていますか。



	%	言葉も意味も知っている	言葉は知っていたが、意味は知らない	知らなかった
ア 性的マイノリティ（性的少数者、セクシュアル・マイノリティ）	100.0	64.0	23.8	12.2
イ L G B T	100.0	65.5	20.5	14.0
ウ レズビアン	100.0	84.7	9.7	5.6
エ ゲイ	100.0	84.2	10.3	5.5
オ バイセクシュアル	100.0	73.9	17.7	8.4
カ トランスジェンダー	100.0	68.4	21.1	10.5
キ S O G I	100.0	7.7	14.5	77.8

※性的マイノリティとは、同性に恋愛感情を持つ人や、生まれ持った性（出生時の性）と心で感じている性（自認の性）が一致しない人などのことを言います。

※L G B Tとは、L（レズビアン：女性の同性愛者）、G（ゲイ：男性の同性愛者）、B（バイセクシュアル：両性愛者）、T（トランスジェンダー：身体と心の性別に違和感のある人など）の頭文字を合わせた言葉で、性的マイノリティをあらわす総称の一つです。

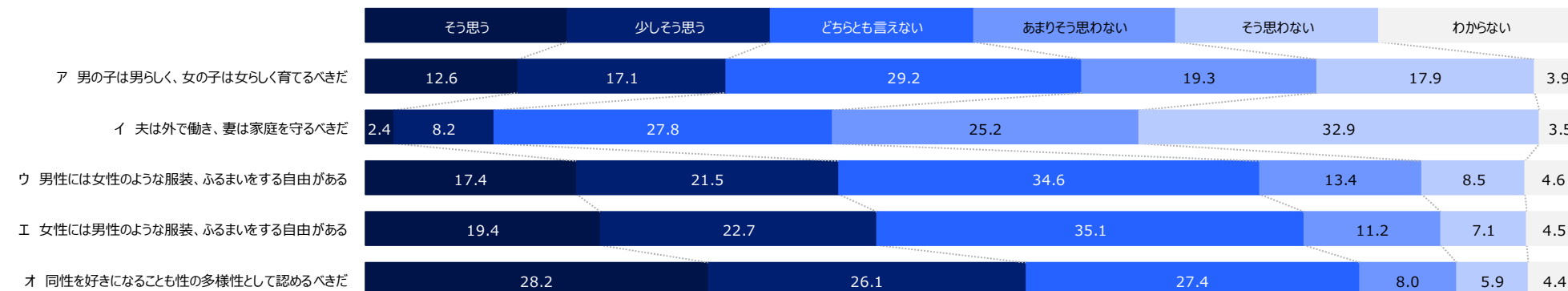
※S O G Iとは、「性的指向」（Sexual Orientation、恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか）と「性自認」（Gender Identity、「私は男（女）である」等の、自分がどの性別であるかについての内面的・個人的な認識）の頭文字を合わせた言葉です。

2 性別に関わる意識

◇ 選択肢『イ』について、「あまりそう思わない」（25.2%）と「そう思わない」（32.9%）を合わせた【そう思わない】が58.1%となっている。

◇ 選択肢『オ』について、「そう思う」（28.2%）と「少しそう思う」（26.1%）を合わせた【そう思う】が54.3%となっている。

Q2.次のア～オについて、あなたのお考えやお気持ちにもっとも近いものはどれですか。ア～オそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。

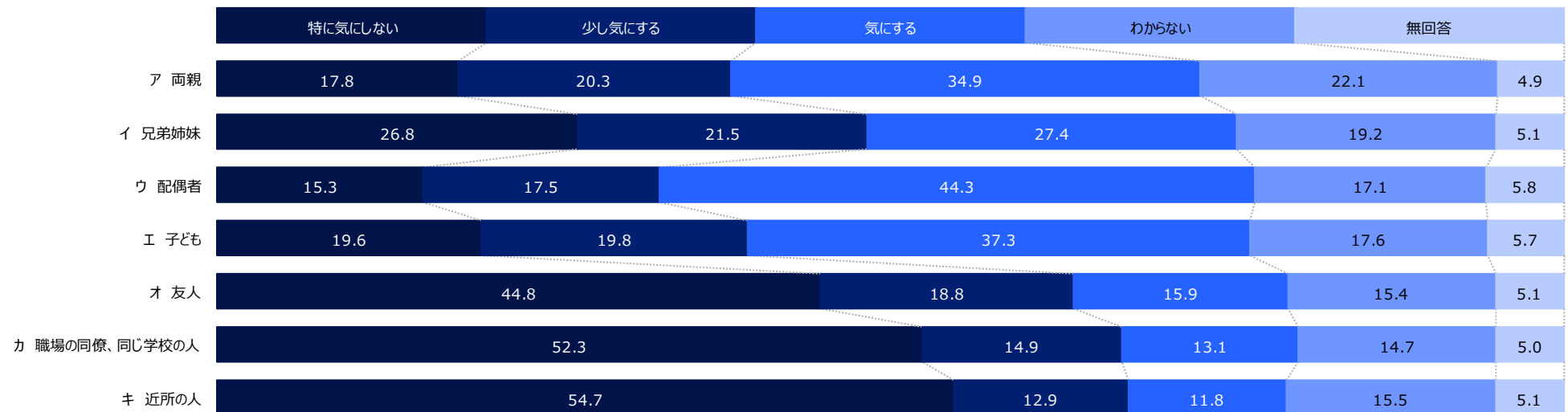


	%	そう思う	少しそう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	そう思わない	わからない	【そう思う】	【そう思わない】
ア 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	100.0	12.6	17.1	29.2	19.3	17.9	3.9	29.7	37.2
イ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	100.0	2.4	8.2	27.8	25.2	32.9	3.5	10.6	58.1
ウ 男性には女性のような服装、ふるまいをする自由がある	100.0	17.4	21.5	34.6	13.4	8.5	4.6	38.9	21.9
エ 女性には男性のような服装、ふるまいをする自由がある	100.0	19.4	22.7	35.1	11.2	7.1	4.5	42.1	18.3
オ 同性を好きになることも性の多様性として認めるべきだ	100.0	28.2	26.1	27.4	8.0	5.9	4.4	54.3	13.9

3 身近な人が性的マイノリティだった場合の感じ方

- ◇ 『気にする』では、「配偶者」が44.3%、「子ども」が37.3%、「両親」が34.9%と高くなっている。
- ◇ 『特に気にしない』では、「近所の人」が54.7%、「職場の同僚、同じ学校の人」が52.3%と高くなっている。

Q3.次のア～キの方が性的マイノリティだったとした場合、あなたはどのように思いますか。ア～キそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。



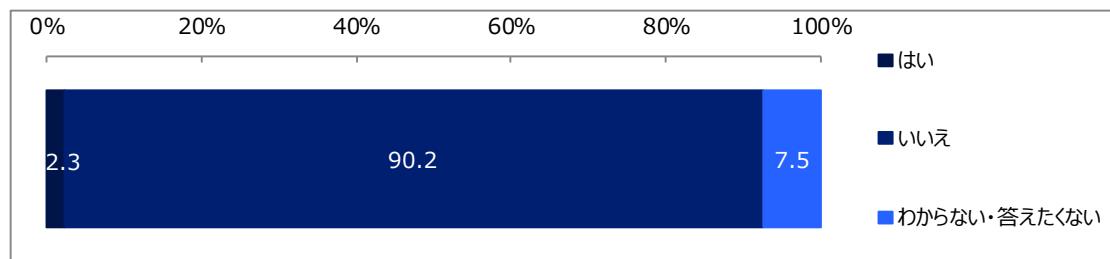
	%	特に気にしない	少し気にする	気にする	わからない	無回答
ア 両親	100.0	17.8	20.3	34.9	22.1	4.9
イ 兄弟姉妹	100.0	26.8	21.5	27.4	19.2	5.1
ウ 配偶者	100.0	15.3	17.5	44.3	17.1	5.8
エ 子ども	100.0	19.6	19.8	37.3	17.6	5.7
オ 友人	100.0	44.8	18.8	15.9	15.4	5.1
カ 職場の同僚、同じ学校の人	100.0	52.3	14.9	13.1	14.7	5.0
キ 近所の人	100.0	54.7	12.9	11.8	15.5	5.1

4 性的マイノリティの当事者

◇ 性的マイノリティの当事者かどうかについて、「はい」が2.3%となっている。

Q4.あなたご自身は、性的マイノリティの当事者ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
はい	2.3	23
いいえ	90.2	902
わからない・答えたくない	7.5	75



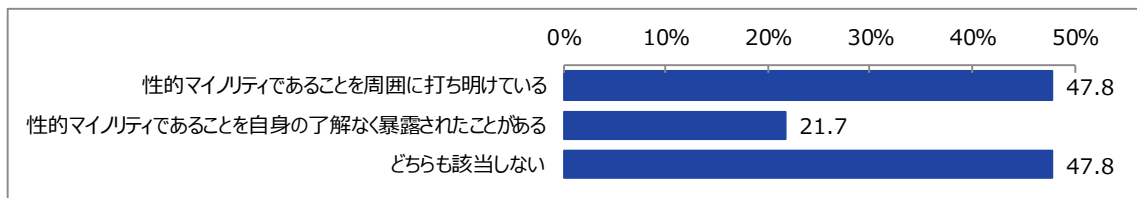
5 性的マイノリティであることの公表

◇ 「性的マイノリティであることを周囲に打ち明けている」は、23人中11人（47.8%）となっている。

(Q4で「はい」と回答された方へ)

Q5.あてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	23
性的マイノリティであることを周囲に打ち明けている	47.8	11
性的マイノリティであることを自身の了解なく暴露されたことがある	21.7	5
どちらも該当しない	47.8	11

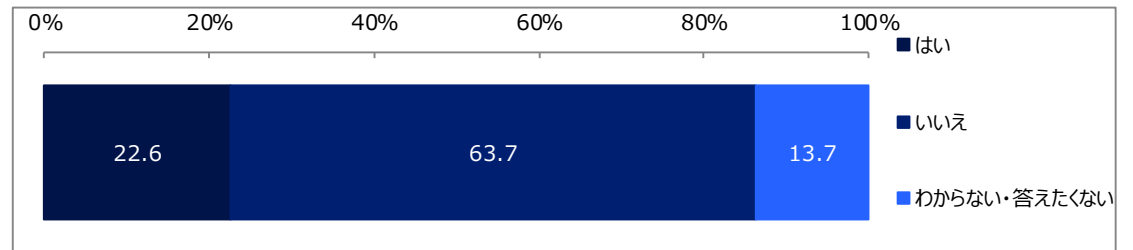


6 周りに性的マイノリティの方がいるか

◇ 周りに性的マイノリティの方がいるかについて、「はい」が22.6%、「いいえ」が63.7%となっている。

Q6. 今まで、あなたの知り合いで、性的マイノリティの方はいましたか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
はい	22.6	226
いいえ	63.7	637
わからない・答えたくない	13.7	137



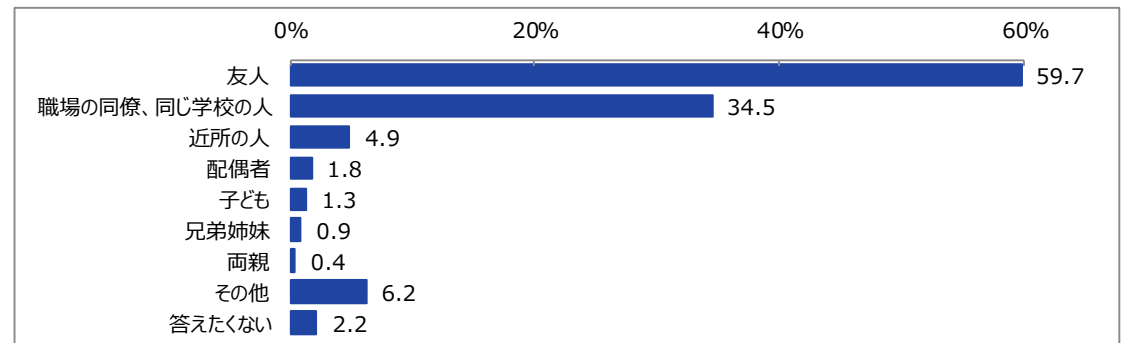
7 性的マイノリティの方との関係性

◇ 「友人」が59.7%で最も高く、「職場の同僚、同じ学校の人」が34.5%と続く。

(Q6で「1.はい」と回答された方へ)

Q7. それは、あなたにとってどのような関係の方ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	226
友人	59.7	135
職場の同僚、同じ学校の人	34.5	78
近所の人	4.9	11
配偶者	1.8	4
子ども	1.3	3
兄弟姉妹	0.9	2
両親	0.4	1
その他	6.2	14
答えたくない	2.2	5

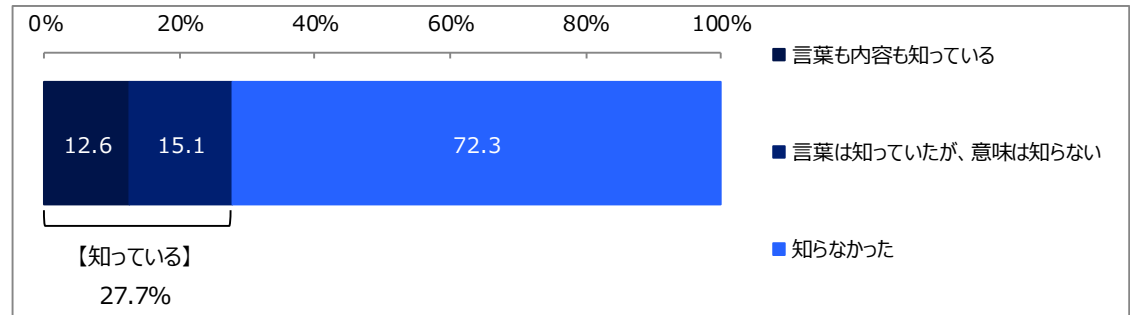


8 「いばらきパートナーシップ宣誓制度」の認知度

- ◇ 「言葉も内容も知っている」(12.6%)と「言葉は知っていたが、意味は知らない」(15.1%)を合わせた【知っている】は27.7%となっている。
- ◇ 一方で、「知らなかった」は72.3%となっている。

Q8.あなたは、「いばらきパートナーシップ宣誓制度」を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
言葉も内容も知っている	12.6	126
言葉は知っていたが、意味は知らない	15.1	151
知らなかった	72.3	723



(※) パートナーシップ制度とは、性的マイノリティのカップルが互いに人生のパートナーであると宣誓したことを自治体が証する制度です。
詳しくは茨城県ホームページをご覧ください。

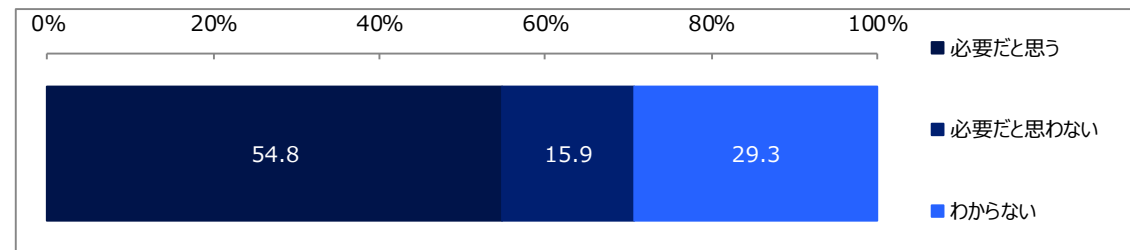
茨城県 HP : <https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/fukushi/jinken/ibarakipartner.html>

9 子どもに対する性的マイノリティ教育の必要性

- ◇ 「必要だと思う」が54.8%、「必要だと思わない」が15.9%となっている。

Q9.あなたは、子どもの頃から性的マイノリティに関する教育が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

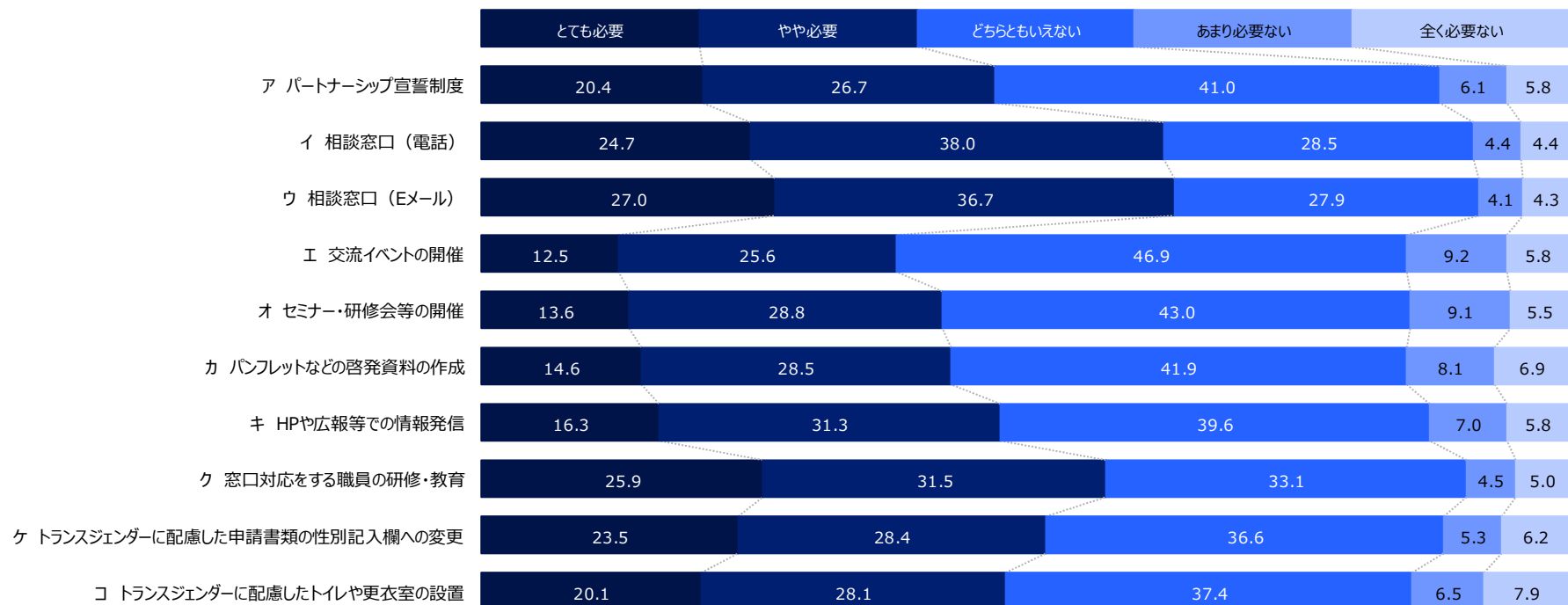
	%	n
全体	100.0	1000
必要だと思う	54.8	548
必要だと思わない	15.9	159
わからない	29.3	293



10 LGBT等・性的マイノリティに対するの取組み・施策の必要性

☆ 『とても必要』では、「相談窓口（Eメール）」が27.0%、「窓口対応をする職員の研修・教育」が25.9%、「相談窓口（電話）」が24.7%と高くなっている。

Q10.あなたがお住まいの自治体（県・市町村）で、LGBT等・性的マイノリティに対するの取組み・施策として、それぞれの程度必要だと思いますか。
ア～コそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。



	%	とても必要	やや必要	どちらともいえない	あまり必要ない	全く必要ない
ア パートナーシップ宣誓制度	100.0	20.4	26.7	41.0	6.1	5.8
イ 相談窓口（電話）	100.0	24.7	38.0	28.5	4.4	4.4
ウ 相談窓口（Eメール）	100.0	27.0	36.7	27.9	4.1	4.3
エ 交流イベントの開催	100.0	12.5	25.6	46.9	9.2	5.8
オ セミナー・研修会等の開催	100.0	13.6	28.8	43.0	9.1	5.5
カ パンフレットなどの啓発資料の作成	100.0	14.6	28.5	41.9	8.1	6.9
キ HPや広報等での情報発信	100.0	16.3	31.3	39.6	7.0	5.8
ク 窓口対応をする職員の研修・教育	100.0	25.9	31.5	33.1	4.5	5.0
ケ トランスジェンダーに配慮した申請書類の性別記入欄への変更	100.0	23.5	28.4	36.6	5.3	6.2
コ トランスジェンダーに配慮したトイレや更衣室の設置	100.0	20.1	28.1	37.4	6.5	7.9

■調査の目的

県民の「人権」に対する意識や人権問題への認識の推移を把握し、人権施策の成果を確認するほか、人権問題に関する課題・ニーズを明らかにし、より効果的な啓発手段等を考察する。

県総合計画Ⅲ「新しい人財育成」における政策15「自分らしく輝ける社会」の施策1「多様性を認め合い、一人ひとりが尊重される社会づくり」の中で、ダイバーシティ社会の構築のための啓発の推進に取り組むこととしている。

■実施概要

・実施期間：令和5年9月8日～9月15日

・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和5年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル
回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		114	245	94	359	188	1,000
性別	男性	59	125	50	185	99	518
	女性	55	120	44	174	89	482
年代別	18～29歳	18	41	16	68	33	176
	30歳代	17	42	16	62	30	167
	40歳代	23	55	21	83	41	223
	50歳代	28	57	21	79	42	227
	60歳代	28	50	20	67	42	207

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。